TOP INTERVIEW. II

県域を越えた交通事業者の連携で

唯一無二の 観光エリアをつくる

1908 年に創立した島原鉄道(諫早-島原港間・43.2km)は、今年、鉄道営業 113年を迎える。1990年から約4年半にわたる雲仙・普賢岳噴火活動(火砕流・ 土石流)で被災し、その復旧と災害後の観光客の減少、沿線の人口減少で経営 が逼迫、2008年に島原外港 (現・島原港) - 加津佐間を廃止した。

その後も低迷は続き、2018年より長崎バスグループの傘下となった。新体制の 下ではさまざまな新しい施策を実施しながら鉄道事業が再構築されている。永井 和久代表取締役社長にお話を伺った。

社内外をつなぐ島鉄をつくる

崎バスグループの傘下に入り、経営が 砕流や土石流で被災され、その後は経 行われているのですね。 してこられました。2018年より長 営で苦労をされながら鉄道事業を持続 島原鉄道は雲仙・普賢岳噴火の火

による再生支援が行われ、長崎バスグ

島原という地域や島鉄という企業

ええ、地域経済活性化支援機構

と思います。私も長崎バスの一員とし あり、経営再建に協力するのは適任だ の老舗の公共交通機関という共通点が で、「ここまで関わった以上は自分が て島鉄の再建策を検討していましたの 崎バスと島原鉄道(島鉄)は長崎県内 ループがスポンサーとなりました。 先頭に立ってやらんといけん」と思っ

島原半島では唯一の鉄道事業者、つま 競合することがなかったし、不遇な時 り老舗でかつ独占企業で、同業他社と 陥った原因は大きく二つあると思いま **永井** 外部からの視点では、経営難に 部分を変えていこうと思われましたか。 を外側からご覧になって、どのような した。一つは社内的な部分で、島鉄は





特集:ウィズコロナの沿線観光振興と鉄道利用促進

福岡

[地域の公共交通を守り、観光振興に活かす取り組み]

と話をして、 難しいが、納得できるようにはしたい と本領発揮できないと社員に説明しま のためには全員が一つにつながらない げていくことが当社の役割であり、 ます」と決意表明をしました。 と話しました。 した。それと満足できるような待遇は 持つようにする。島原半島内外をつな は、社員の意識を改革し、 に立つことを大前提としてやっていき 南島原市に「私たち島鉄は地元のお役 各自治体、 活動が少ないように感じられたことで そこで就任してすぐに、 沿線地域の自治体や商店街、 旅館組合など、外部との交流や 諫早市、 ベースをつくってきたん 1年をかけて社員全員 雲仙市、 同じ目的を 島原半島の 島原市、 社内で そ

長崎

「つなぐ島鉄 つながる島原」

県域を越えた連携による観光ル

熊本に行けますが、

フェリー

・や飛

語られてこなかったこと。

もう一つ

この鉄路を確保していかなければなり 弱者の方々の生活路線であり、 用を増やしていくことが必要だと考え ません。 を果たしていることに変わりはなく す。それでも皆さんの重要な足の役割 道やバスも高校生の通学利用は年に どのようなところにありますか。 10%ずつぐらい減少している状況で でも人口の減少率が大きく、当社の鉄 な柱となりますが、この地域の特徴は ど外部から来た方の利用が収益の大き 長崎県、長崎市ともに全国の 般的に地方の鉄道は地域の交通 そのためには、 やはり観光利 観光な 中

もあって自然が豊富で、 い場所ですね。 城や世界遺産の原城跡もあり、 -島原半島は歴史的にも有名な島原 観光資源は多 海も山

ています

社員の方は安心されたようです。

熊本

永 井 アフターコロナでは空気が澄んでいる 界遺産も世界ジオ されたものですし、 です。 ということも大きな優位性となります。 も高いエリアです。 い魅力が多くて、 避暑地でもあった場所なんです。 ん島鉄とJRを乗り継げば長崎や博 雲仙地区は日本初の国立公園で、 でもそれだけではないんです。 泉も701年開湯の歴史ある温泉 ええ、 ゴルフ場も日本で2番目に開設 まだまだ発掘されていな ポテンシャルがとて パークもあります。 雲仙天草国立 明治の頃は外国人 一公園 世 雲

> 聞にも「観光に境界線はない、 こうやってみると、九州の中心になる 感覚だととても遠いイメージですが、 この地図面白いですね。 客誘致に注力しています。 をコンセプトに交流人口の拡大や観光 そこで、「つなぐ島鉄 つながる島原 田 いるのです。 もと観光客は県境を越えて旅をされて めたか県境」と掲載されました。もと のですね」と言われました。当時、 地図を使ってご説明したら、「いやあ、 行機を使えば天草や熊本、 光庁長官に、この島原を中心に置いた 離島などに行くことができます。 島原は東京の 博多、 数年前に観 証が決 大牟 新

とも業務提携を結びましたので、 ましたし、 提携を締結して「雲仙・天草の世界遺 年には九州産交グループと包括的 たが、 ごとに実施されていますが、 たいと思っています。 産周遊バス」などの観光商品をつくり 意識するきっかけともなりました。 とに驚きましたし、 も熊本からフェリーで島原に入りまし えていくという考えですね。 は熊本の桜町 「ハブ&スポーク」を進めています 天草を重点エリアとして20 多くの観光プロモーションは県域 所要時間が30分ととても近いこ 対馬と行き来する商品もつくり そうなんですよ。 オリエンタルエアブリッジ バスターミナルを拠点 国土や地形をより 九州産交グルー まず対岸の熊 今回 それを超 <u>1</u> 私

> 前縦断 理的制約条件がある、この長崎でしか 3社の鉄路を乗り継いでいくと、 めてエリアをつくっていくことが重要 ターとなってくれる。 箇所を拠点に、 で移動したり、 も大きく変わっていくように思います。 ね。そうすると旅行者と地域の関係性 ルも大きく変わると思います。 やれないことは何かを考えています。 県でどういった「線」が引けるのか、 成を行っていきたいと考えています。 鉄道とも協同で新たな観光ルートの造 本としてつなげていけばいいんです。 て考えながら、 が、それぞれが自分の地域を拠点とし 所に足を延ばす旅もあります。 ながらの旅がある一方で、 行が減少し、 いろいろ考えているところですね。 くださる。そうやって連携して、長崎 諫早-雲仙・島原)ができるんです。 皆さんにお話をすると意気投合して ―ニューノーマルとして旅のスタイ あそこに行きたいね」 の楽しみ方は気持ちが落ち着きま かの鉄道事業者、 その地域をじっくり知り、 飛行機や新幹線で長距離を高速 (有田・伊万里-佐世保-大村 個人旅行が主になります リレー方式で宿を変え そこからさまざまな場 観光地にとっては お互いにスポークの JR九州・松浦 だから他県も含 魅力的 とリピー 団体旅 かつ 肥 ま

泊』だけではなくて、

『10人が訪

のような長期滞在やリピート

てのような

『100人が訪れて各1

雲仙普賢岳を背景に走る黄色い列車 観光列車「しまてつカフェトレイン



フェトレイン」 諫早駅はJR九州と島鉄の接続駅

なってきたところ 認知されるように

だける。

サイクリストの旅はどこかに

の変化をサイクリストに楽しんでいた

コロナ禍になりま

そうで、

私たちが目指しているものは

サイクルツーリズムとも合致します。

在

国で認定されているナショナル

で2020年春の

拠点を置いて、

そこからあちこち走る

やく「つなぐ島鉄

ています。 していて、

それが東南アジアに広がっ

島原半島には豊かな自然が

いたんです。よう

つながる島原」を

あり、

海あり、

谷あり、

山ありの地形

なっていたので、 買物などが中心と 地周辺での短期の クルーズ船は寄港 南アジアの国々を 台湾、 韓国や中国からの 自分たちは香港や インバウンドは、 そのほか東

んロ

| |-

(茨城県)・ビワイチ

(滋賀

があるのです

サイクルルートはつくば霞ヶ浦りんり

うイメージを社内で共有するようにし 国内・海外ともしばらくは団体客では 形の旅を提供したいと考えていました。 ています。 なく小グループの旅に移行するでしょう し、そうした方向にシフトしていくとい ターゲットに違う

実施は少し先の話になるとは思います 現在はコロナ禍にありますので ていらっしゃいますか。 -具体的にはどのような施策を考え

永井 を始めましたし、 いいますか、プライベートを重視する 方向性で、2019年4月より観光列 イン」を考えています 「しまてつカフェトレイン」の運行 個人の嗜好や個人のグループと 今後は「サイクルト

ますか。

どのような方向に求めていらっしゃい

が、今後の観光や地域活性化の活路を

永井

2018年ぐらいまでは鉄道運

新体 羽.

日 ーロッパでは自転車での移動を推奨 自 転車は密を避けられますの で、

半ばぐらいまではずっと前年超えして

年の2019年から2020年の2月 制になって経営改善策を実施して、 賃収入も年々落ちていましたが、

> のでね。 ます。 できればと考えています。 り、さまざまな情報が得られるように 島から天草を抜けて北薩鹿児島までの 県 げると約300 ㎞の道が設定できます ムを考えていたそうなんですが、 ただいて、駅ではメンテナンスできた 線にも自転車を持ち込んで乗車してい 用者の幅が広がりますよね。当社の路 サイクルルートを作りたいと思ってい に天草や大牟田ではサイクルツーリズ ・しまなみ海道サイクリングロー これに続くものとして長崎島原半 リーなども使えるようにすると利 (広島県・愛媛県) オール自転車ではなく、

する人が増えてくる。

10泊する地とし

上げなければなりません。

て選択してもらえるように付加価値を

長期滞在、

プライベート型の旅に対応

認したり、 ば、 永井 宿やレストランの予約をしたりできる タルの仕掛けも必要になってきますね。 ーいいですね。 今後、 広域で動いていただくのであれ 支払いをしたり、 観光MaaSが必要になり 地域の情報を入手したり 広域観光では、 位置情報を確

> んです。 ちが行っていることは何も特別なこと ような、 内で皆が連携して行っていることのサ 事業者、 ではなく、 でいかなければと考えています。 残る道はこれしかないと思ってい きたいですね。 かりではなく、 ても期待していますが、 イズ感を少し大きくしたということな もちろん長崎新幹線の開業にはと 観光関連の事業者など、 先進的なことも取り入れてい どの観光地でも行政や交通 今後、 自分たちで道をつない 島原半島の生き それに頼るば 地域 私た

直されるようになりますね。 ーそうなると、 改めて鉄道の力を見

鉄道や

域を越えて県域を越えて、 永井 要だと言われる。そのような鉄道をつ 地域の鉄道が役立っている、 なるかを提示することが重要です。市 を使うことによって地域の未来がどう ています。そのためには、 誇りとなるような鉄道にしたいと考え 線路を守るという話ではなくて、これ くり上げていきたいと思います。 私たちは島鉄を地域の皆さんの 自分たちの ただ島鉄の 絶対に必

実は、

すで

つな



(本記事は 2020年 12月 16 日取材時の内容です) MINTETSU SPRING 2021 16 [地域の公共交通を守り、観光振興に活かす取り組み]

島原地域の公共交通を 維持する

島原鉄道(島鉄)は2008年より行政支援も受けながら運営を続け ているが、2018年に新体制となった島鉄の取り組みに、地域から も期待が高まっている。2022年秋の長崎新幹線(武雄温泉ー長崎 間) 開業を踏まえ、交流人口の拡大や地域住民の利用促進を目的に、 島鉄と地域の強い連携によるさまざまな取り組みが行われている。

島原市役所 市長公室 政策企画課長

_ 力口 寸寸

Hideki KOGA



島鉄と連携して鉄道利用推進策を展開



駅舎が城の意匠の島原駅

島原鉄道は雲仙・普賢岳の噴 火災害の復旧費用や、災害後の 観光客の減少・沿線人口の減少 などにより厳しい経営状況に 陥り、長崎県および沿線自治体 が島鉄に出資したことを契機 に、1996年島原鉄道自治体連 絡協議会が設立されました。そ の後、鉄道路線の一部(島原外 港〈現・島原港〉 - 加津佐間) が 2008 年に廃止されました が、鉄道安全輸送設備の整備費 のうち、国の補助額を除く3分 の2の経費に対し、長崎県と沿

線自治体(島原市・諫早市・雲仙市)がそれぞれ3分の1を支援す る仕組みがつくられました。また、さらなる支援として島鉄の運営 費に対して沿線自治体が上限3000万円(各市1000万円)で赤 字補塡するようになりましたが、これは独自の施策でほかにあまり 例がないかと思います。

2020年度はコロナ禍で実施できませんでしたが、2019年には 島原市の人口(約4万5000人)にちなみ「4万人の足キャンペー ン!」という公共交通利用促進事業を島原鉄道と連携して実施しま した。市域は高齢化が進み、高齢者の免許返納も推進していますの で、生活の中に公共交通で移動する習慣をつけてもらうための施策 です。また、学生は保護者がマイカーで送迎するなど、公共交通の 通学利用も減っているので、学生にももっと利用してもらいたいと 考えています。島原市の都市機能は中心部に集約されており、鉄道 や路線バスなど公共交通が比較的利用しやすい環境ではないかと思 います。民間のバスは運転士が不足して、路線バスが維持できない 状況となっていますので、市でコミュニティバスを運行し、公共交 通の運行頻度や時間帯については、事業者と相談しながら地域の 方々が利用しやすい形にしていきたいと考えています。そうした中 で、定時性の高い鉄道は住民の足として重要な存在であり、地域の 活性化のためにも、島鉄の鉄路は維持していきたいと思います。

2022年秋の長崎新幹線開業にも大きな期待

新体制後の島鉄が、沿線の観光資源を活用して観光客を誘致しよ

うという意識は強く伝わってきますし、地元住民の方々からも「島 鉄はとても頑張っている」との声が上がっています。今はコロナ禍 で進んでいませんが、島鉄が行っている修学旅行の誘致はとてもい いですね。マイカーでの移動に慣れている子どもたちが鉄道乗車を 体験できる。硬券切符への鋏入れなどは皆、大喜びです。子どもた ちにもぜひ鉄道になじんでもらいたいと思います。

協議会は地域と島原鉄道の橋渡しを務める役割ですので、支援額 の調整のほか、島鉄の利用促進や沿線観光振興に協力しています。 沿線 21 駅に周辺観光案内図を制作して設置したり、島鉄のPR用 パンフレット制作の支援、イベント開催の公共交通利用キャンペー ン (チラシ配布や呼び掛け) などを行っています。「しまばらん」 という島原市のキャラクターが島鉄のイベントに登場したり、「し まてつカフェトレイン」などの観光列車が走行する時には沿線の 方々に手振りの協力を求めることなどもしています。

あの黄色い列車が走る光景は風情がありますので、それを地元に 残したいですし、ぜひ観光でこの地を訪れる方々にも見ていただき たい。ボックスタイプの座席の車両も味があります。

人口減少・少子高齢化が進む中で、鉄道の利用促進はやはり観光 に活路を見出すしかないと考えています。島鉄が打ち出す広域観光 は島原を拠点に地域の鉄道やフェリーなどを利用して周辺都市や観 光地を結ぶもので、とても期待しています。

2022 年秋には長崎新幹線(九州新幹線西九州ルート)の武雄温 泉ー長崎間が開業する見通しで、途中駅の諫早(仮称)は島鉄と接 続します。新幹線から島鉄に乗り換えて島原に来ていただくという 誘客活動を今度さらに強化していきたいと思います。新幹線と接続 する諫早、フェリーと接続する多比良・島原港など島鉄の駅がこの 地域にとってのゲートとなっていくわけです。また島原駅は駅を出 ると正面に島原城が見えて、とてもいい立地です。

現在はコロナ禍で他の地域や人との交流が難しいのですが、島鉄 が豊かな発想をもとにしたさまざまな取り組みを地道に続けていか



島原駅出口から正面右手に島原城が見える

れることで利用実績や 収益の拡大につながる のではないかと期待し ています。その施策が 続けられるように、島 原市および協議会は関 係自治体とともに支援 していきたいと考えて います。